



寒さに負けない中学生！

8日(日)の立冬を過ぎ、暦の上では立春の前日までが冬ということになります。この時期は、朝夕の冷え込みがだんだんと厳しくなり、日中の陽ざしも弱まってきて、冬が近いことを感じさせます。木枯らし1号(今年はすでに吹いたようです)や初雪の便りも届き始めます。

【一口メモ】木枯らし・凧

晩秋から初冬にかけて吹く、冷たくやや強い風のこと。気象的には10月半ばから11月末にかけて西高東低の冬型の気圧配置の時、最大風速8m/秒以上の西北西から北向きの風のことを言います。「凧」という文字には、風が吹くたび葉が落ちるため、木を枯らしてしまう風という意味があります。

学校では文化祭終了後、小学生の中学校見学や三者面談等の行事の多い毎日が続いていますが、そんな中でも週末には毎週のように各種大会があり、各部ともすばらしい活躍をしています。

寒さに向かう季節となりますが、背筋をピンと伸ばして毎日を送りたいものです。

三者相談お世話になりました！

10月27日(火)から2週間に渡って行われた三者相談では、たいへんお世話になりました。

3年生にとっては、進路に関する話し合いが中心となり、目標を目指す心構えもできたのではないかと思います。これからの2,3ヶ月が勝負となることを肝に銘じて頑張ってもらいたいと思います。

1,2年生にとっては、学習や生活についての話し合いがされ、学習への取り組みや生活の様子にいい変化が見られる生徒が増えたようです。今後期待しています。

学校公開日

14日(土)は学校公開日となっています。多数の保護者の皆様の参観をお待ちしております。

授業参観

1,2校時

教育講演会(10:45~12:20)

講師：腰塚 勇人様「命の授業」~今の幸せに気づくことから夢は広がる~

模擬店(12:30~13:45)

松明あかし(17:30集合) 生徒会役員・応援団が参加します。

松明が完成しました！

10月から作製していた松明が完成しました。伊藤克一様から指導をいただきながら、3年生の有志80名が放課後等を利用して作製しました。13日(金)の5校時に出発式を行い、午後3時に会場に運搬し、PTA役員の皆様の協力を得ながら設置する予定です。

《二中学生の活躍》

須賀川市民体育祭剣道大会

中学男子個人 優勝 佐藤 辰則
3位 本内悠太郎

中学女子個人 優勝 黒津ひなた
2位 加藤 杏佳
3位 馬飼野若奈

中学新人個人 3位 吉田さくら
須賀川市民体育祭バレーボール大会
3位 Bチーム

岩瀬支部中学校新人ロードレース大会
1年男子 2位(小森・金沢・五十嵐)
57分16秒

1年女子 優勝(名越・菊地・金澤)
35分03秒

1・2年女子 2位(名越・菊地・金澤・竹内・渡部・白石田)
1時間12分27秒

1年男子 3位 小森 直幸(18分38秒)
4位 金澤 俊紀(18分43秒)

1年女子 1位 名越 美帆(11分04秒)
2位 菊地 麻耶(11分05秒)

2年女子 3位 竹内 真琴(11分38秒)
10位 渡部まあり(12分32秒)

福島県中学新人ソフトテニス大会
男子個人 5位 吉田英斗・會田遥輝
福島県ウエイトリフティング採点制競技会
中学女子部 優勝 安藤千鈴(96点)



内部被ばく検査を実施しています！

11月2日(月)から18日(水)の11日間、内部被ばく検査を実施しています。1日に2～3クラスずつ検査を進めています。今回の検査は希望のあった生徒を対象に、クラス順に一人ずつ検査車両の中の器械で実施しています。

検査の結果については、1ヶ月以内に各家庭に通知されることになっています。



生徒会交歓会がありました！

10日(火)の午後に、中教研の教科外部会があり、岩瀬地区内の先生方が部会ごとに研究会をもちました。

大東中で開催された特別活動部会では生徒会交歓会が行われ、各中学校の生徒会役員が自校の取り組みを発表し、意見を交換しました。本校からは、生徒会長の大柿奈々海さん、副会長の小池百音さん、事務局長の西間木涼乃さんの3名が参加し、活動の様子や成果を発表しました。実り多い交歓会となりました。



教育講演会の講師：腰塚勇人様から

はがきが届きました！

「私の宝物それはあなたに会えたこと」
出会ってくれて ありがとう
必要としてくれて ありがとう
思いを形にしてくれて ありがとう
お会いできますこと

楽しみにしています

10日(火)に届いた腰塚勇人様からはがきの内容です。心温まるはがきに、当日の講演会がとても楽しみとなりました。

保護者の皆様にもたくさん来校していただき、講演を聴いていただければと思います。

成功の反対は、失敗ではなく
やらないことである

これは、佐々木則夫監督(日本女子サッカー)の言葉です。失敗をおそれない心が、ワールドカップ女子サッカーで優勝、ロンドンオリンピックで銀メダルを獲得することができたものと思います。生徒の皆さんは、1階廊下に掲示してあるポスターで見たことのある人も多いのではないかと思います。

チャレンジすることの大切さを言ったものです。中学生の特権を生かし、自分自身を伸ばしていきたいものです。

こころの窓

子どもであっても大人であっても、もちろん生徒の皆さんであっても、いろいろな困難をかかえ、それを乗り越えながら生きています。目の前に大きな壁があったとき、それを高く感じるか低く感じるかは、様々な経験やものの見方・考え方によって変わってきます。坂道も上りがある分、下りもあります。どんなに険しい山道であっても、越えれば下り坂がやさしく迎えてくれます。困難に楽しさを感じながら、坂道を上っていききたいものです。

機関誌「PHP」から的一篇を紹介いたします。

若葉の峠

峠から峠に移る旅路かな……いつ聞いたのか、どこで読んだのか、もうすっかり忘れてしまったが、この言葉だけは今も忘れずに、時折の感慨にふと頭をかすめてゆく。

一つの峠を越えてホッと息をついたら、また次に峠が控えていて、その峠を越えると、やっぱり次にまた峠が続いていて、だからとめどもなく峠が続いて、果てしもない旅路である。

これもまた人生の一つの真実である。真実である限り、これは誰も避けられない。避けられなければ、やはりただ懸命に歩むほかないであろう。

高い峠、低い峠、のんびりした峠、さまざまな起伏の中に、さまざまな人生が織り込まれて、それで一筋の歩みのあとがついてゆく。時には雨に降られ、風に吹かれ、難渋の重い足を引きずらねばならぬこともあろうが、また思わぬ暖かい日射しに、チチと鳴く小鳥の声をなつかしむこともあろう。

それでも元気に懸命に、越えられるだけの峠を越え、歩めるだけの旅路を歩みたい。

若葉の峠に、また新しい意欲をおぼえるのである。